

てらこや埋文

2009年
秋



資料館 ちょこつとリニューアル!

「どこかが」・・・そして「何かが」違っ見えませんか?

まずは右の2枚の写真をご覧ください。当館展示室入口の写真なのですが、両者に大きな違いがあることにお気づきですか? 実は記念すべき去る10月23日、澄み渡る秋空の下、展示室に「ドア」がついたのです!

過度に近代化したこの現代社会で公の展示施設入口にドアが存在しないなんて、ちょっと考えられないですよね? でも...

「すみません。ドア、なかったんですよ」

残念なことに当館展示室には長らくドアが存在しませんでした。そのため、展示室内に空調をきかせることもできず、展示資料はもちろん観覧者にも極めて厳しい環境を強い続ける状況が続いたのです。夏は35℃を超え、冬は5℃を下回る。風が吹き込み展示図録が舞い上がる。まさに阿鼻叫喚の世界。今まで当館をご活用いただいた皆様に、心よりお詫び申し上げます。

でも、もう大丈夫! 文化財に、そして人間に快適な環境をご提供できることになりました。ドア1枚で空間ってここまで劇的に変化するんですね。今ようやく、ニール・アームストロング船長の気持ち少し分かった気がします。ドアって・・・素敵です。

さて、ドア談義はここまでとしまして、ここからは資料館リニューアル後、初の展示となる第28回企画展のお知らせです。

第28回企画展「土の中からコンニチワ ～山口大学発掘調査速報展2009～」を開催!

11月9日(月)から開催する企画展は、3年ぶりに開催する「発掘調査速報展」です。

昨年末より、山口大学では数多くの施設・設備拡充工事が計画され、それに伴い当館も遺跡保護を目的とした発掘調査に精力を傾けました。その結果、主に山口市に所在する本学吉田キャンパス(吉田遺跡)各所において数々の重要な調査成果を得るに至りました。その内容をご紹介しますと、室町時代の集落跡や古代の土器・木製品を包含する谷、古墳時代の溝、弥生時代の遺物包含層などなど。

本年夏に至り発掘調査も一段落したことから、現在は調査で出土した膨大な数の資料の整理事業を行っています。今回の企画展では、何百年何千年の時を経て地上に姿を現したばかりの貴重な文化財を多数展示いたします。

未だ各調査の詳細な検討が行えておらず、展示終了後に遺跡の評価を変更する場合もあるかもしれませんが、まずは出土したての生々しい資料をじっくりと観察していただき、資料から発せられる古の様々な情報を私たちとともに読み取っていただければ幸いです。

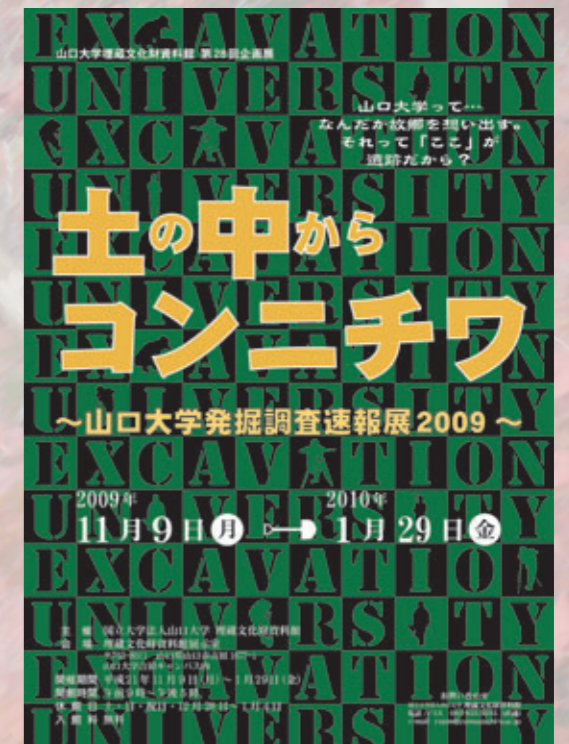
会期は1月29日まで。寒い季節となりますが、例年になく暖かな展示室をご用意しています! ぜひ一度足をお運びいただくよう、お願い申し上げます。



改修前の展示室入り口



改修後の展示室入り口



第28回企画展ポスター

(横山成己)

山口県内の博物館紹介 vol.18

下関市立考古博物館

下関市立考古博物館は、平成7年5月に開館しました。博物館は国指定史跡「綾羅木郷遺跡」に隣接しており、館内では綾羅木郷遺跡から出土した弥生時代の考古資料や下関市内の遺跡から出土した古墳時代の考古資料などが展示されています。また、屋外は史跡公園として整備されており、市民の憩いの場として活用されています。

今回は、澤下孝信学芸員に博物館についてお話をうかがいました。

(質問) 博物館の展示で工夫されていることはありますか?

「毎年春には、「発掘速報展」など、下関市域をテーマにした小企画展を行い、秋には他府県の関係機関からも資料を借用する幅広いテーマで企画展示を行い、常設展示と合わせて埋蔵文化財に親しんでいただけるような工夫をしています。常設展示では、綾羅木郷遺跡の理解を深めていただくために、平成13年に綾羅木郷遺跡の解説冊子「綾羅木郷遺跡への招待」を作成しました。今後も新知見を展示に反映させるなどの工夫をしていきたいと考えています。」なお、平成20年5月に当館から徒歩5分の位置にJR梶栗郷地駅が開業したので、団体見学や遠方からの見学が大変便利になりました。

(質問) 展示のほかにも、一般教養講座、体験学習、考古博物館探検など様々な催しをされていますね。

「展示に加えて、講義を受けたり、体験をすることは来館者から「分かりやすい」という声が多く、好評です。今後も来館者に埋蔵文化財を身近に感じていただけるような催しをしていきたいと考えています」

現在、下関市立考古博物館では、11月29日まで「木の文化Ⅱー古墳時代の木器ー」が開催中です。山口県ではなかなか目にすることができない西日本各地の集落や古墳から出土した貴重な資料が多数展示されています。下関市立考古博物館へ是非足をお運びください!

(田畑直彦)



下関市立考古博物館外観



常設展示室

お問い合わせ先
下関市立考古博物館
〒751-0866
山口県下関市大字綾羅木字岡 454
TEL 083-254-3061



2009年夏 埋蔵文化財資料館の活動

- 6月 6/1(月)・4(木)・11(木)・16(火)・23(火)～26(木)・29(月) 吉田構内動物医療センター改修工事(吉田遺跡)で立会調査を実施
- 6/11(月) 吉田構内教育学部仮設電柱工事(吉田遺跡)で立会調査を実施
- 吉田構内人文学部外灯設置工事(吉田遺跡)で立会調査を実施
- 6/18(木) 光構内教育学部附属光中学校プレハブ設置工事(御手洗遺跡)で立会調査を実施
- 7月 7/2(木)～6(月) 吉田構内新教育棟工事(吉田遺跡)にて立会調査を実施
- 7/3(金)・31(金) 吉田構内動物医療センター改修工事(吉田遺跡)で立会調査を実施
- 7/4(土) 七夕祭(山口大学寮祭)にてイベント『つくろう! 古代の装身具～勾玉身に付けクールビューティー～』開催
- 7/6(月) 学内連携企画展『鉱物・岩石七変化』オープン(於:埋蔵文化財資料館展示室 11月2日まで)
- 7/7(火)～28(火) 吉田構内野球場防球ネット設置に伴う予備発掘調査(吉田遺跡)を実施
- 8月 8/4(火) 白石構内教育学部附属山口小学校渡り廊下設置工事(白石遺跡)で立会調査を実施
- 8/5(水)～20(木) 吉田構内教育学部改修工事に伴う予備発掘調査(吉田遺跡)を実施
- 8/7(金) 吉田構内東アジア研究棟新営工事(吉田遺跡)で立会調査を実施
- 8/17(月) 白石構内教育学部附属山口幼稚園池改修工事(白石遺跡)で立会調査を実施
- 8/20(木) 吉田構内動物医療センター改修工事(吉田遺跡)で立会調査を実施
- 8/21(金) 吉田構内本部棟横外灯設置工事(吉田遺跡)で立会調査を実施



公開授業第1回授業「古代米田植え」を開催



学内連携企画展『鉱物・岩石七変化』

編集・発行

季刊山口大学埋蔵文化財資料館通信
第18号

『てらこや埋文』2009 秋

山口大学埋蔵文化財資料館
〒753-8511 山口県山口市吉田 1677-1
【Tel/Fax】083-933-5035
【E-mail】yuam@yamaguchi-u.ac.jp
【HP】http://ds.cc.yamaguchi-u.ac.jp
/~yuam-w/Shiryokan.home/

発行年月日 2009.11.9.

資料館この一品 vol.15
吉田キャンパス本部2号館敷地の発掘調査

本部2号館敷地一帯の埋蔵文化財

これまでご紹介してきたように第2学生食堂(きらら)から遺跡保存公園、大学会館敷地・大学本部周辺は姫山から西に延びた小高い丘陵になっています。この地域一帯ではこれまでの埋蔵文化財資料館による発掘調査で、縄文時代から近世の遺物が大量に見つかっています。また、弥生時代・古墳時代の竪穴住居跡や平安時代の掘立柱建物、室町時代・江戸時代の井戸や屋敷跡など各時代に及ぶ様々な遺構が見つかっており、吉田遺跡の中心部であったといえる場所です。今回はこの一角を占める本部2号館敷地の発掘調査についてご紹介しましょう。

本部2号館敷地の発掘調査

本部2号館敷地(約800㎡)では、昭和54年(1979)9月19日から11月20日までの約2ヶ月間発掘調査が行われました。その結果、敷地内には一段高い遺跡保存公園周辺から流れ込んだ遺物包含層が約60～80cm堆積しており、縄文時代から近世の遺物が大量に見つかりました。また、遺物包含層の下からは以前ご紹介した弥生時代のゴミ捨て穴(土壌)や室町時代の井戸、土壌墓、掘立柱建物の柱穴、室町時代～近世の溝などが見つかりました。これらのうち、特に注目されるのは室町時代の遺構と遺物です。

井戸は直径約1.7m、深さ約2mで、外枠には長さ30～60cmの板石を積み上げています。井戸の中からは土師器の皿や銅銭などが見つかりました。土壌墓は長軸が81cm、短軸49cm、深さ46cmで、墓の底から土師器の皿が2個見つかりました。人骨は見つかっていませんが、土壌の形態、出土遺物から幼児の墓と考えられます。

溝は、室町時代の遺構を「コ」の字状に取り囲むように掘られており、幅が70cm～100cm、深さ15cm～40cm、南辺の長さが約21mで、溝の中からは、土師器、瓦質土器、陶磁器などが見つかりました。これらはいずれも16世紀～18世紀頃の遺物であることから、この場所で長期間に渡り屋敷が存在していたことが分かりました。しかし、掘立柱建物を構成する柱穴は敷地外にも存在するため、残念ながらどのような掘立柱建物が何棟建っていたのかは不明です。

また、本部2号館敷地から約200m北東に位置する新教育棟(山口大学就職支援施設)敷地では、昨年12月から今年の5月にかけて行った発掘調査で室町時代を中心とする中世の掘立柱建物跡や井戸が見つかりました。同調査の成果については現在整理中ですが、中世において本部2号館敷地から新教育棟敷地一帯にかけてどのような集落が存在したのか、今後の解明が待たれます。

(田畑直彦)



本部2号館敷地発掘調査区全景(南西から)



土壌墓(北東から)



溝遺物出土状況(北西から)



室町時代の井戸(西から)

お食事処まいぶん vol.6
古代の調理具 甑こしき ②

今回ご紹介するのは「甑(こしき)」という、古代の調理具です。甑は食物を蒸すための「蒸し器」で、底に穴の空いた土器です。甑の登場により、この時代の人々に「蒸す」という新たな調理方法が加わりました。このコーナーでは実際に甑を使った調理方法をご紹介します。

①甑に入れた水を沸騰させる



③お湯が沸騰したら甑を甑の上に載せる



②甑にすのこ・布などを敷き、お米を入れる



今回使用した甑の底部はこのような穴が空いています。

④完成



実験結果

今回の調理実験では、一晩水に浸したもち米を使用しました。火力が足りなかったためか(本来はカマドを使用します)、沸騰まで約50分、蒸し上がるのに約30分の時間を要しました。甑で蒸したお米は、炊いたお米よりもかなり歯ごたえがあり、とても美味しくいただくことができました。

(乃美友香)

遺跡発掘Q & A Vol.1

ここは遺跡の発掘調査でよく耳にする質問に答えるコーナーです。今回は「遺跡はどのようにしてできるのか」、「なぜ遺跡は埋まるのか」などの質問を取り上げます。

遺跡ができるまで

まず「遺跡とは何か」ということから考えていきましょう。遺跡とは遺物と遺構から成り立っており、それらを含む場所を示します。遺物とは土器や石器、木製品など過去の人類が使った道具を指し、遺構とは建物跡や用水路、橋など過去の人類が地面に残した活動痕跡のことを言います。ですから、住宅のある居住区、田畑や果樹園、墓地など過去の人類の活動痕跡全てが遺跡となるため、特別な場所にあるわけではないのです。現在私たちが生活している土地は、過去に人類が森林を開墾して田畑を開き、氾濫する河川を治めて居住域を獲得してきた末に成り立っているため、その地下に遺跡を含んでいることが多いのです。

この「現在の生活は過去の生活の上に成り立っている」という事実は「なぜ遺跡が埋まるのか」という問いの答えを示しています。例えば住居を新築する場合、古い住居を壊して地面を平坦にした後に新しく住居を建てますが、古い住居の基礎の痕跡は地面に残ります。このように現在に生きる人々が生活するために過去の人々の生活は痕跡として地中に留まるため、遺跡は地中に埋もれているのです。

(藤野好博)

